丸子式速記

我が速記道

倉嶋　宏

1	速記色の高校時代	商業の生徒に負けじ意気あれど 熊崎基礎符読み追い付かず
2	(昭和20年代)	基礎符号それが速記の総てぞと 無知蒙昧に慢心したり
3		音読みを少量線で処理したる さらに速記に度肝ぬかれる
4		乙(級)挑み信越車中でタメ息す 弾き飛ばされ塵芥
5		熊崎の長線省き円省き 基本符号の総て取り替う
6		熊崎を総て替えてもいかんせん 夏の早書き瞼離れず
7		とはいえどこのままにてはあきらめず １年半の符号生かさむ
8		かつやめよかつは続けむ二者の声 瞼鮮やか夏の記憶ぞ
9		基礎符号作り替えては無根拠の 単語符号を更に量産
10		新基礎等単語符号を取り交ぜて 一から出直す高３二学期
11		天上のつかえはすぐに出できたり 苦悶にむせぶ高３の秋
12		無根拠の符号やたらに増やせども 覚え切れずに地団駄を踏む
13		あろうことや県養に疑問書き送る １年半の深き道のり
14		県養のご返事早し関教授 秋季旅行で別所の湯でと
15		朝よりは授業手つかず上の空 胸高鳴りて未知思う

16 夕方に雨ふりはじむ別所線 遅き歩みに心のみ急く

17 いかなりや国会符号示さるや 雨音激しわが胸の如

18 柏屋のロビーに続く卓球台 ピンポンはじく県養生徒

19 菓子折を先生直に手渡して すぐ通されぬ生徒憩う間

20 にこやかに応対なさるいち生徒 研修の晩ただわが為に

21 雨さらに旅館の屋根を叩きつく 約２時間のお諭しを受く

22 終電車客人わずか三、四人 丸子に着きて雨もどしゃ降り

23 変えるべき変えざるべきか熊崎を 否この道に勇みて進まん

24 四、五日後一冊の本送付さる 速記入門ハンドブック

25 あの晩にやさしく諭せし生徒さん ご丁寧なる手紙とご本

26 熊崎をいまさら捨つること難し １カ年半修めたからは

27 いかにせん心揺らぎて呻吟し ハンドブックを読みて毎日

28 幾百の符号ブックより抽出し 熊崎まじえ無根拠まじえ

29 通教の方途もとらず継続す あえて道行く三者混合

30 通教は積極的になれぬなり 無理もなからむ高３の冬

31 熊崎のベース符号でフルネーム 見つめて友は「こりゃ簡単だ」

32 15符を覚えるだけで書けるよと ライバルもどき周囲に示す

就職後も頭の中には
常に速記符号
そして奨励試験受験

33 就職も印刷会社に決まりたり 活字の作業符号創作

34 再びは長野工業に足運ぶ 三者混合ひっさげてゆく

35 (昭和30年代) 三、四人ひと組となり共練す 時計を見つつ交も互で読む

36 棒線に小円付して濁音化(乙部泉三郎先生) 甲級終わりしばし自論す

37 甲級は無残な結果となりにけり 三つの刃木っ端みじんに

38 ブックより基礎に単画取り入れぬ 熊単折衷更に無根拠

39 印刷所世間に遅れし近代化 我職を離し行商販売

40 三度目の長野工業甲級に 線は呆れて多く語らず

41 甲級の半分程は自信あり 投げ捨て石にかじりつくなり

42 佐竹式速記との出会い 電車の中前席にふとシャープ持ち しきりに空に書く人いたり

43 もしやもしなにかの縁と声掛けす 一級挑戦東京からと

44 列車降り受験場まで同道す 林さん(林文一さん)とて佐竹式とか

45 600字書くことできると示されし 本科理論編拝し卓置く

46 驚きや三橋の唄の大全盛 そのころ既にこの理論あり

47 右せむか左せむかの役場どき 早稲田を極む佐竹康平

48 既にはやものせしなるかあの夏の 林氏の脳いま思いみる

49 信越の上り列車も隣席 ずうずうしくも佐竹の符乞う

50 佐竹式さらに詳しく知らむとし 二回にわたり符号文乞う

51 仕事の傍ら独習･受験 符号創作改良継続 この月に我採用の通知受く 役場職員国保係に

52 単画にきれいさっぱり置き替える 拗音記号熊崎のまま

53 10年の歳月掛けて脱式す 各式ルール仕組みを学ぶ

54 ２音字の意味と仕組みを幾年も 早稲田、佐竹に沿わせてもみる

55 旧式の無根拠符号大幅に もったいないが廃棄処分に

56 拗音を基礎単画に取り換えぬ 使用頻度の多い音から

57 音読みと訓読み書法に驚けり 上下隠法いずれも自在

58 「ラ行」音各種書法は書き流す 五体に分ける方途いまだし

59 ２音字に「ラ行」が付いて書き流す ここの時点ですでに３音

60 一画に数種音節設定す 幾らもできる可能性あり

61 助詞含む多音節符号増やしたし 余りキケンの及ばぬ程度に

62 円符号難易個人差あるならむ 大円楕円は極力避けつ

63 書き流し円化可とする書法で 弾力効果自ず生ぜむ

64 つてありて月刊早稲田入手せり「月ワ」と称しよき味方なり

65 とはいえど試行錯誤はまだ続く 取捨選択の符号人生

66 早稲田式漢字辞典を参考に 多頻度順に再考重ねる

67 人の書く符号も知らず過ぎにけり 書く人見たし書く線見たし

68 書き方を指南する人誰もなく 正誤の区別独り判断

69 独りいて独り学びし我ゆえに 省略方途無理なかるらむ

70 「独りでは速記を学ぶはしょせんムリ」真意次第に理解かなえり

71 長野市に列車で通う行き帰り 符号のことを常に想いて

72 長野市に職をおきたり険しさに 速記学習消えなんとす

73 長野市へ朝夕汽車旅息詰まる 簡字速字に没頭したり

74 長野市に身を置きつつも奨励の 試験一度も受けられぬ身は

75 審査係の職員となりそろばんを 終日はじく速記遠のく

76 審査係の職員全員戸隠キャンプ 我宿直す速字考う

77 国保連定期総会いつの日か 見かけた男速記の席に

78 冬の日の通勤環境ごく悪し 速字事などさらに遠のく

79 農協の寮に食後に憩いする 受験生徒に符号を示す

80 日曜は県の図書館二、三度に 速記書籍を探索したり

81 酒を飲み符号学べる人と飲み 悲喜こもごもの速記人と飲み

82 速記線いいも悪いも別にして 決定権はただ我にあり

83 なじみきた愛着持ちし符号をも あえて捨て去ることも度々

84 上段の活用よりも下段位置 いやそれよりも下段の右下

85 数年は奨励検定当座としたる 自ら選びし符号の模索

86 保健税納休会者の宛名書き 符号同時に脳で書き取り

87 とりたてて練習などはせじままに またも奨励甲受けるなり

88 無作為に簡字数多を作り出す 限界感ず役立たぬまま

89 時には基礎符号さえ変更す 拗音多く長短さまざま

90 学校で学びておれば今じぶん かかる道草食わざりしもの

91 単画も線の境界不十分 高速志向不利な点あり

92 月ワ読みはじめて分かる速記学 奥の深さにさらに惹かれる

93 20代月ワの指導あったれば 紆余曲折はすまいしものを

94 佐竹式読み進む程に佐竹氏の 厳しき理論に襟正す

95 単画と自覚はすれども大部分 早稲田と佐竹根底にあり

大学に通いながら仕事
符号符号、鍛錬鍛錬
検定試験受験の日々

96 病院の業務のゆえに大学の 通信教育30にして

97 受験生農大キャンパス溢るれど さぎりてくるしまだ続く列

(昭和40年代)

98 解答紙いねむる中にぼやけたり はっと気づけば横川の駅

99 意になし初農大の三級は 止まりたるやに紙面七行

100 農大の速記検定終了し アメ横に寄り鮭を二尾買う

101 同行の省略のすべ単画も 複画もとに試行錯誤す

102 フック型鈎は前後のいずれかと 前置決定一部を除き

103 左より右下の線コ線癖 ５mm短線以内と結論

104 拗音を特定しない式もあり 符号倹約同形異音

105 長音を短線にする書法あり 清音長線これいかに

106 濁音は可能な限り加点せず 無蛇足合理化速記の極意

107 「くり」の符を広げて書いて「くりひろげ」 このウィットは応用無限

108 書き流し「ラ行」も「ン」も同形と 決めさえすれば重宝なもの

109 円符号最小限に小円化 線に沿わせて半円書きに

110 点打ちと加点位からの継続は いかなる差位や科学の目では

111 例外を作らぬことが本来の 系統立った速記方式

112 短線は角度微妙でキケンあり されど長線単画化せり

113 ツキ符号気負い定着図れども 他の方式に沿いて進める

114 同行の省略課程小楕円 線に沿えずて単画意味なし

115 「ラル」平ら「リ」は直下にて多用化し 「レ」は右下辺「ロ」は右上に

116 「オ行」略「ロ音」に習い右上に 存外便利多用もまたす

117 「へ」と「ホ」の長音容易に定まらず 「レー」「ロー」ともに長期費やす

118 長野県議会の 速記する人を無性に見たくなり 県の議会に電話で依頼

119 速記者に会いたい 傍聴の席は閑散我ひとり 最前席に喰い入りて見る

120 (昭和50年代) 午前中２時間程を凝視せど 書かれる符号微々にて分からぬ

121 ディテールを確かめること不能なり せめても見たき符号の大山

122 筆捌き話速変わるもほぼ同じ 速さのままでよどみなく書く

123 我がものと指動かして合わせ見る 技官速記者なに躊躇なく

124 何事も変わったことのなき如く 飛び交う言の葉線条に消す

125 午眠もとらずもくもく午後議会 ３時間半言葉書きゆく

126 コチョコチョと掌中に包み書き続く 単画歴を彷彿させぬ

127 原稿の一枚もなく日刊紙 大きく広げ真正す議員

128 台風過風倒木の質問に「とうへんぼく」とヤジとばす議員

129 本会に反れたつまらぬ言の葉も 速記者毅然と書いている

130 地方弁口角泡と急ずれど おとといおいでと書き取らる

131 せかせかと言追いかけるルーキーを しばし垣間見悠然たりし

132 高速で果ても止まらぬなまり言 一瞬の間に符号におさむ

133 血筋立て若手議員はまくしたつ 世はこともなく符号化へ

134 対話なくひたすら言葉追いかける 速記者二人線に集中

135 森山氏(森山力雄さん)事務局におり速字書く 技官直通議員の発話

136 閉会後厚かましくも入室し 教え乞うたり数字の書法

137 数速字２と４を除く短直線は 単位符号が系統的に

138 10小丸100長くして1000流し 10000は10連100000000はお重ね

139 ２音字を考えし人いみじくも 日本語構成よく見ぬきたり

140 ２音字の真の意味とは何たるや １短線の四分の一

141 ２音線同行同列基とし 多頻度順に考え及ぼす

142 ２音符は真の２音符たり得るか ワンストローク必ずしもなし

143 本来は基本短線二分の一 ２音符号の粗製乱造

144 長線は本来的に２音符の 意味にそぐわぬ素材に向かぬ

145 ２音符と言えども円を含みたる 矛盾を含む幾多方式

146 短線と連続せずに線沿わす これ本来の２音符ならず

147 単弧線丸めて大きく楕円付け これ２音符と誰が言うらむ

148 単音に加点を付して２音符に 離筆の不利は承知の上か

149 森山氏山本氏(山本憲三さん)よりwidely めくるも速し原文帳

150 言の葉を符号に換えし50年 電光石火のかの筆捌き(森山さん)

151 列車降り悠揚迫らぬ歩きぶり 議会の嵐納めしはのち(森山さん)

152 単画の若手尻目に鷹揚に 辣腕ふるう複派人(森山さん)

153 初議会口角泡の党幹部 線のさざ波泰然自若(山本さん)

154 略符号としふる毎に不要とて 基礎符号その神髄極む(山本さん)

155 耳で聞き手指は自ずと動いてる 理解思考はほとんどなくても(山本さん)

156 省線の若手尻目に高速度 縦横無尽泰然自若(山本さん)

157 大仰に上下左右に揺するれど 速記懊悩微塵も見せず(山本さん)

158 県議会有象無象の流言を ほくそ笑みつつ総て符号化(山本さん)

159 省略にのみ汲々とせし我が記法 基礎字の冴えを間の当たりに受く

160 共練会に 早稲田式共練会の通知受く 11時過ぎ誰一人来ず

161 出会いを求めて 黒板にひとり速字を連綿と 書きいて誰か来校を待つ

162 上田市に速記やる人なかりしか ひとり憂いぬ午後２時の鐘

163 長野市の共練会に歩を運ぶ いかなる出会い胸はときめく

164 木枯らしが窓にはじけぬ室内は 符号の熱気終始あふれる

165 小中の生徒集まる十数人 佐賀田先生既に着席

166 おるだけで満足感は脳に満つ 速記に染まり熱気に染まる

167 晩秋の蔵春閣の二階の間 速記生徒は勇み集いぬ

168 ５時間の学びを終えて帰途の折 善光寺道七五三の人

169 飛び入りで見学のみに終始せし 符号に対す一体感覚ゆ

170 丹念に佐賀田先生添削す 教室授業かくなるものか

171 上中下段活用小気味よさ 未来現在過去の助動詞

172 語の定義方式ごとに分かれたり さほどに大差なかりしものを

173 重ね書き中程よりも末尾より 話音書法合理的かな

174 四字熟語普遍的なる符号順 １、２字上に４字目重ねる

175 速字とは中近東の字に似たり 中近東は右から左

176 基礎速字代わり使用の式もあり 幾多ありせば益まさるべき

177 ２音符に幾種類かの書法あり 便利さ追求あくなきままに

178 簡略に見えても速字さに非ず いずれの世界個人差のあり

179 助詞符号万能ならず基礎符号 新設符号味わいやよし

180 受験も継続 会場で読み書き練習そこかしこ 我ほくそ笑み盗聴で書く

181 右横に複画派の人座りたり 書きとる符号最小２㎝

182 未だ見ぬ細かき符号あやつりぬ 鼻高くして奥目の女性

183 なんぴともシャープペンシル使いたり 我ひとりいてトンボ鉛筆

184 冬の陽はビルに隠れて影長し 二級に落ちぬ代々木学園

185 大学のスクーリング中野寮 管理人さん速記に興味

186 大学の一般教養学びしも 11年のブランク重し

187 早稲田速記学校を訪れてみる 大学のスクーリングの余暇をみて 高田馬場に来れどあわれ休校

188 二階にて事務の人をば煩わす 例文符号数枚わたさる

189 例文は研究編のものにして なにや複画こぢんまり文字

190 日暮れきて中野の寮に帰りつき しみじみ見いる最終形文字

191 日常の授業風景見たきもの 思い立ったらいてもいられず

192 月ワより多くの事柄学びたり 教室授業まさにそのもの

193 直接の速記指導者なき我に 珠玉の如き月ワの御教え

194 全くに異なる速字我持せど 底なる心我に通ずる

195 目をつむり書けるようにと教われり 特添指導寺井先生

196 業務の傍ら
速記記録･反訳

197 老医師の労組執行委員長 低音速でごく書き易し(滝沢篤先生)

198 家で死ぬこの説三度書き留めぬ 肝に銘じる役場会議室(矢嶋嶺先生)

199 院長の中国旅行スライドで 補足の語りこぼれ陽で書く

200 保健所の医療監視近づきて 事務長の部下常より速口

201 速記だのあるいは録記ありし時 後者をもとに健推記録

202 話し出し１、２分後に地金出す スローで喋る確約むなし(婦長講演)

203 職員のマナー向上講演で スーパー主任の歯切れよさ書く

204 盛んなり文化講演林立す 速記の依頼頓とみ受したり

205 文化人公民館に馳せ参ず テープとじか書き複数こなす

206 提出も消文化にて充分と 日を追うごとに条件変われり

207 テープなら三日でいかがと打診あり 一週間はぜひとも必要

208 いっぺんに五本のテープ依頼され さあどうしようか兎に角着手

209 夏の陽や午前訓練汗染みぬ 昼飯摂らずテープより取る

210 上田市役所の速記者に
手ほどきを受ける

教室で手ほどき受けし「半分も 省略法は使ってません」(田中行房さん)

「反訳の煩わしさを考えて 基礎符号のみ書いております」

211 「分科会取るに足らない話まで 真面目に全部書いてます」

212 「複画も小さ目に書く癖が付き 単複差なく苦にはしません」

213 中根速記学校を訪れてみる

試験済み九段下道徒歩行けば やがて左に中根速記学校

214 人気ない細い階段のぼりゆく かすかに聞けし朗読の声

215 室内に学生三人速記中 目を凝らしても符号は見えず

216 一区切りひとりの生徒の言うことに いま夏休み僕等特訓

217 中間に鉤置き分ける摘記法 式超越し見習うべきや

218 合格しても何度も二級を受験

落ち着けと浅間に祈り上京す 明日胸躍る検定試験

219 幾度か長文節を書きつづる 農協寮に泊まりての晩

220 新旧の符号葛藤おさまらず 不安のままに明日は修羅場か

221 渋谷より農大方面行バスは 速記受験者黒山の如

222 受験生受け付け場所は込み合えど 二級の会場意外に少なし

223 本試験１分前の空読みは 書く人もあり書く人もなし

224 そして一級晴れて速記士に

早稲田より速度カセット買い入れぬ 一級受験の10日程前

225 早稲田より緑色シャープを購入し 試験五回目初おろしする

226		名古屋から大汗のまま一級の 部屋に駆け込む赤リュックの人
227		受験所の高校巣飼いの鶉か 反訳中にクククククよくなく
228		汗たぎる長野工業受験場 京浜名古屋東京の人
229		宇原川大泥流を起こしたり 受験日迫る二日程前
230		救助隊整列厳し長野駅黙礼ののち一級受験
231		一級で精根共に尽き果てん空虚な脳をビール浸透
232		一級を受験せし後帰り道ビール一口脳駆け回る
233		我はもや一級得たりみな人の得がてにすとう一級得たり(元歌･万葉集)
234	業務の中での 速記活用	創立の30年に残したる幾多の言霊よくぞ書けたり
235		初診日にご本人から家人から速字用いてアナムネをとる
236		他部門のスタッフこぞり羨みぬアナムネとりに速字が武器と
237		速字では線記患者いかなるを書かれておるか寸分判らず
238		アナムネを書きて隠すの要もなく見られていても相手わからず
239		アナムネも時に要点箇条書き本人語りは全言記録
240		誘い調整失語状況速記する日に八、九人に趣味を尋ねる

241 麻痺側の構音障害音不明シャープ筆先ついはたとやむ

242 症例の研究発表基礎作り速記利用で何と悠々

243 語彙調査速字反訳瞬く間他のスタッフはカセット奮戦

244 何よそれでたらめ書いてんじゃないでしょう 看護師は目を白黒と

245 最終の医師のまとめを即時する 症例検討火曜夕方

246 中執へ会議報告いつも先 速記利用の甲斐を知るらむ

247 リハカルテ記録内容必見と 速字部分を和語にあらたむ

248 CVA(脳血管障害)言語の障害伴いぬ 右片麻痺者特にきわどく

249 メディカルなヒストリー主に記録する 数多の速字生み出しにけり

250 スピーチの特徴的な遅速あり うってつけなり我が速度には

251 業務の傍ら ドクターの医学シリーズカセットで 農協有線反訳依頼に

252 速記記録･反訳 健康の推進会議農協の 婦人部会議目白押し

253 組合の定期大会徹夜して 反訳し終え朝より清書

254 中執の委員長講演６時より 朝より緊張ひねもす心配

255 組合の執行委員三選へ 速記の業務また増えるらし

256 療養所所長に乞われ符号書く 凄いものだとおほめを頂く

257 この上で議会はじまる君どうか 記録取る人ひとりとていぬ

258 旧役場中三階の書庫置き場 早稲田テキスト束に七冊

259 図書館の「言語関係」棚中に 早稲田速記の研究者あり

260 簡易語を集めしノート手渡して 高頻度の符説明したり

261 秀信社二階に在りて民報社 記してみまほしイロハ四十八

262 速記文字習いたいとの希望あり 空き家空き室椅子机あり

263 武石村介護保険が始まると パネルディスカス誘い頻繁

264 年明けて昼の休みに記録する 会長新年年頭挨拶

265 医療費の大幅改定医事課長 三夜連続事情説明

266 若い頃速記で活躍されていた 高崎の翁速字を吊る

267 訓練の現場取材の男記者 私の言を速記でスラスラ

268 NHK報道記者二人 こちらの符号見て一瞬たじろぐ

269 覆し法則もあり30年 生ずる符号はからず自在

270 因果な道よと言いつつも早昼飯を かっこんで本会１時の速記に急ぐ

271　退職後も速記の日々　朝礼で全職員に校長は 速記のできる新任委員と

272　「ジン」の線左下位位置定着す 人権委員に選ばれし時

273　音声を形にするとこの線条 とく符号見る公民館長

274　予報士の言書きし後我に問う 雷雨なる線いかに書くやと

275　符号作もうやめようと思えども ラジオ聴くごと際限もなし

276　いまはもや符号の道もこれ道か 突発難聴病院の床

277　複雑な線と思えど30年 我脳髄の生きてこそすれ

278　よしわるし符号身につけ30年 今あるを是とし励みに励め

279　脳襞にもう消しえぬや基礎符号 なれば今たくましく追符はかれ

280　がむしゃらに突っ走りおる省略癖 静かに思え基礎の符号を

281　省略線あみ出す毎に推し量らる 技の退行きたすや如実

282　終えぬ符号探求　符号線コンパクトに保持さるを いかなる道や更なる省線

283　(～現在)　省略の虜いつしかぬかるみに はまりて身動きできぬ我はな

284　行く末はまなこつむりて書こうもの 省略試考でその夢無残

285　省略線ただ走る人その源は 横着ズク無し怠け者

286 省略はいか程迄が許さるる かくなる考え悪癖の道

287 いま持てる省略符号で打ち止めよ それをおかさば破滅あるのみ

288 円符号線沿い優位しかれども 丸円楕円分けることなく

289 円符号難と思えば書きにくし 先入観が尾を引くならむ

290 円符号楕円減らさば現在の 速字枠組壊滅確実

291 長短線いかなる差異やあるならむ 大円小円何をか喋喋喃喃

292 円・線をあまりとり立て論ずるは 総て単純線と心得よ

293 円符号単独よりも伴線で 書く小気味よさリズミカルなり

294 縮記とは摘記と同語いかなるや 全法則を網羅せぬ語ぞ

295 縮記とは広義にわたるものならず 全法則の一部なるべし

296 縮記とは省略符号の総称か 多音節では「合成」あるらん

297 興味あり寓意もしくは依意符号 探索あきず夜は白々と

298 多頻度の音節または多音節 依意の符号は遠慮することなし

299 緩急に富みどこのどなたが与えた これが本当の依意符号なり

300 位置利用加点さほどに気にならず 空間継続むしろdanger

301 位置利用いかなる便やもたらさむ ズク出し書いて書いて書きまくれ

302 ２音符と同形符号の位置利用 応用範囲おそらく無限

303 位置利用多用はキケン多頻度の 趣くままに作りたるよし

304 直上は思いのほかに不都合と 自然ありゆく右上の肩

305 直下より右下位加点高ければ ついぞ決めたり２音節あまた

306 無根拠の簡字幾千作るれど 法則とシステマティック極むべし

307 摘記符は簡字の源と解すべき 条件整理で数千生産

308 書きにくい符号は絶えず付きまとう 卓立符号国字またよし

309 無根拠な簡字の幾つも長かりき よくも2000語作りたるもの

310 無根拠の符号廃せし方策は 摘記記法に極意見出す

311 できうれば400か所以上でやめなされ 応用可能を除いてはなり

312 ２音符は朝の通勤帰り道 創造するは歩行時最高

313 系統を問わぬ２音符不可思議ならず 基礎符号で行き詰まりあり

314 複画派の２音符号便利なり むやみやたらに量産するな

315 短線に音節多く当てんとす ２音符号と取り組み我は

316 複画線何を煩うことやある 人事尽くすのみの道

317 音訓も慣れてしまえば上下段 使用頻度で分け隔てなく

318 単画派複画派共の優劣は 未だ科学の実証はなし

319 用言の活用知らずば多用なる 動・助動詞の符号は不毛

320 できうれば書かずに済ます法ありや 動詞・助動詞続く助詞群

321 助詞含む文節数多あらまほし １音助詞の煩わしさゆえ

322 熟考す複合助詞の位置利用 巧みに書せる方便あるかと

323 おしなべて助詞は短線傾向か 数多の方式共通したり

324 助動詞の「である」書法は熊崎の 独学者にも僅かありたり

325 繰り返す記号大山小山あり 他の方式は長線短線

326 １線に多く音節含めたし 複合助詞もワンストロークにて

327 ウィットをきかせた符号面白し 覚えも易く大小もなし

328 順記ゆえなぜかなじめぬ逆記書き 某方式は折衷に難

329 左より右への直線優位あり 次なる優位右上左下

330 「オ」「コ」「ト」点速記理論のはじめとや 乱用乱使リスク重大

331 「ます」「ました」短形化せし速記法 主体部分が比して長かり

332 用言の活用形も知らざれば 線いたずらに増す誇りなり

333 簡単に作り替えたる多頻度語 20の年月一志に含めつ

334 無作為に100の符号を作れども 支離滅裂は覚え方なし

335 尊敬と受け身の「ラレ」は何ゆえか 速記はじめし時のままあり

336 同音に異符号多く当てたるは 余部分なりしも危機救うあり

337 離符不利早期にかくは言わるれど 名だたる方式かなり見らるる

338 あらためし符号定着はからむは 新旧交え使用せし後

339 七度も模索重ねし「しょう」の線 あげく省とて書かぬ時期あり

340 量産の符号ちくいち検証す 「イ」「ン」「チ」「ツ」「キ」「ク」は言葉の要

341 速記中我一枚に五、六行 左右の人は二行でせきぬ

342 知らぬ間に何の苦労なく速字出で 反射神経符号は踊る

343 速記道を行く 基本線忠実な人に神宿る 喋るも神なら書くも神様

344 多岐ジャンル広くこなせる腹くくり ただ黙々と歩む他なし

345 可不可なく血肉となりし符号歴 生かさぬことこそ学問の敵

346 美しき芸術の線求めつつ 我は生きたし年齢経つるとも

347 ひたすらに線を書すのみ美しき 線を書すのみ線を書すのみ

348 美しき線書きの基ただ筆に 基本に徹し書き尽くすのみ

349 手書きでは明治も今も変わらねど 機械に寄らざる同輩努力

350 高速を縦横無尽と対処する コンピューターにいきせざるもの

351 速記歴長くはあれどその実は 符号行脚の放浪の旅

352 熊崎にはじまる我は今も尚 げにさめやらぬ衆参の夢

353 長線や大丸を何いとう こよなく愛せし明治の速記者

354 速記者をまじか自然とあがめたり 昔も今も変わらぬ我は

355 40年同音の符号海馬から はぎ取ることを無理強いはせぬ

356 速書きの友ひとりとてなき荒野 一匹狼自負してきたり

357 符号に汲々するなかれ 系統派生に基づき進め

358 ラジオ聴き脳裏に閃く符号線 この連続でボケにはならず

359 符号線大量少量意味はなし 符号精神ただひとつのみ

360 速記とは苦労しきって書く道よ 相撲道と相似たるかな

　生前、父が「速記川柳」と称して書きためていたものです。
速記関係の皆様には、面白い部分もあるのではないかと存じます。
折角ですので、ここにまとめました。どうぞお読み下さい。

倉嶋　宏　　娘　鈴木　良